

地域 SNS とソーシャル・キャピタル[†]

The Study of the relationship between Regional SNS and Social Capital

峰滝和典*、吉田倫子**、立野伸治***

Kazunori Minetaki, Michiko Yoshida, Nobuharu Tatenon

2005 年以降、地域情報化の新しい流れとして、地域 SNS(Social Networking Service) が全国的に普及してきている。自治体と住民がインターネットを通じて自由に意見交換することができ、住民の地域活動への参加を促している。情報発信が簡単にできること、人間関係のネットワークづくりがしやすいことなどが SNS ならではの特徴である。目的としては、住民参画の政策形成、防災情報の伝達、住民の交流、地域の観光情報の発信、地域経済の活性化など多岐にわたる。

本稿の目的は地域 SNS を利用することで住民の意識や行動にどのような変化があるのかに関して定量的な分析を試みることである。アンケート調査の結果、ソーシャルキャピタルが形成されている場合、SNS によって住民が自発的なコミュニケーションを行うことで、地域に関する情報を収集するためのコストが低下したり、知り合いが増加したりする効果があることがわかった。

In Japan, an increasing number of local governments or local-based venture companies created by young entrepreneur have been operating SNSs after 2005. These services allow citizens to disseminate and exchange information freely over the internet, and there is a growing trend of local governments using this information exchange to promote resident participation and interaction.

It was found from the questionnaire survey and the positive analysis that community participation requires informal or casual communication between citizens through SNSs. With a common practice of writing diaries, casual communication based on regular life can help residents become involved in the regional policy process, and gather and share information about their areas.

March 19, 2008

情報通信政策研究プログラム

[†] 本稿は 2007 年 ICP 助成金プロジェクトの支援を受けて行われた研究成果である。林敏彦放送大学教授はじめ研究会の皆様から貴重なご助言等を頂き、感謝したい。しかしながら誤りがある場合は著者自らの責任であることは言うまでもない。また本研究は著者自身の見解であり著者の所属する組織の見解ではない。

* 富士通総研経済研究所主任研究員 e-mail: minetaki.kazuno@jp.fujitsu.com

** 富士通総研経済研究所上級研究員 e-mail: michiko.yoshida@jp.fujitsu.com

*** 富士通 e-mail: tatenon@jp.fujitsu.com

1. はじめに

2005年以降、地域情報化の新しい流れとして、地域 SNS(Social Networking Service)が全国的に普及してきている。参加者数としても、従来の自治体 BBS(電子掲示板)を上回る規模の地域 SNS も多数存在している。情報発信が簡単にできること、人間関係のネットワークづくりがしやすいことなどが SNS ならではの特徴である。目的としては、住民参画の政策形成、防災情報の伝達、住民の交流、地域の観光情報の発信、地域経済の活性化など多岐にわたる。

総務省(2007)は全国規模で地域 SNS に関する定量的把握を試みた先行文献である。地域 SNS 開設の目的としては、地域コミュニティの活性化による地域の課題解決力の拡充や地域内での交流促進・情報交換のためのネットワーク形成、地域に根ざした情報を収集し現状を認識することといった、まちづくり・地域づくりに関わる意見が多く見られたという。

本稿の目的は地域 SNS を利用することで住民の行動にどのような変化があるのかに関して定量的な分析を試みることである。本稿に先立ち峰滝・吉田(2006)では、企業内のイントラ SNS の利用者に関する定量分析を行っているがそこで得られた結論はソーシャル・キャピタルの形成が SNS を利用したコミュニケーションにとって重要であることである。そこで地域 SNS の分析でもソーシャル・キャピタルの効果を検証することを第一の課題とする。本稿では英国統計局のソーシャル・キャピタルの定義と計測方法に準拠する。

第二の課題は、Norris(2003)が述べている「インターネット上の集団への参加は、同質的な利害や背景をもつ人々の社会的紐帯を強化する可能性が高い」という仮説と、「インターネット上の集団への参加は、異質な利害関係をもった人々の間の社会的接合を高める可能性が高い」という仮説に関係する。地域 SNS の利用によって同質なバックグラウンドを持つ知り合いが増加する場合と、異質なバックグラウンドを持つ知り合いが増加する場合との比較を行う。

以下の章では、2章では本稿の仮説上、重要な概念であるソーシャル・キャピタルのフレーム・ワークとその計測方法について述べる。3章で今回用いる地域 SNS アンケートを概観する。続く4章では定量分析の結果を紹介する。最後の5章はまとめと今後の課題を述べる。

2. ソーシャル・キャピタルの計測

2.1 地域情報化におけるソーシャル・キャピタルの重要性

コミュニティの形成や発展にとって、ソーシャル・キャピタルが果たしている役割について主に社会学において研究されてきた。ソーシャル・キャピタルに関する代表的な定義は、社会学者パットナムによる定義で、「協調的行動を容易にすることにより、社会の効率性を改善しうる信頼、規範、ネットワークのような社会的組織の特徴」というものである(Putnam(1995))。

パットナム等が主張するソーシャル・キャピタルの重要性を、地域情報化において強調しているのが、丸田・国領・公文(2006)である。「地域という物理的なつながりのなかで醸成されたソーシャル・キャピタルが、ネットワーク上で協働を活性化させる上で大きな機能を果たすとみていいであろう」と述べられている。ネット上のコミュニティにおいて互いの信頼関係の重要性を指摘した点に注目したいが定性的分析に留まっているので、本稿ではソーシャル・キャピタルと地域 SNS の定量的分析を行うことで議論をさらに発展させたいと考える。

ソーシャル・キャピタルを計測する試みはこれまでもいくつかなされている。世界銀行では、ソーシャル・キャピタルの計測として、①集団やネットワークへの関与度と貢献度 (Groups and Networks)、②信頼・信頼に値するかどうかと連帯性 (Trust and Solidarity)、③集団行動と協力 (Collective Action and Cooperation)、④情報の入手しやすさとコミュニケーションの行いやすさ (Information and Communication)、⑤社会的結合と一体感 (Social Cohesion and Inclusion)、⑥組織やプロセスを越えて影響を及ぼすような権限付与と政治的行動 (Empowerment and Political Action) とう 6 つの尺度を挙げている(World bank(2004))。世界銀行のソーシャル・キャピタルを計測は発展途上国を主な対象国として行われているので本稿でそのまま採用することは困難である。他に英国統計局によるソーシャル・キャピタルの計測の試みがある。

2.2 英国統計局によるソーシャル・キャピタルの計測の試み

先進国におけるソーシャル・キャピタルの計測に関しては英国統計局の試みが著名である。われわれのアンケート設問項目のなかでソーシャル・キャピタルに関係するものは英国統計局の英国のソーシャル・キャピタルに基づいている。

ソーシャル・キャピタルの概念化と計測についての一貫した調査の必要性については、2001 年 11 月に開催された英国統計局ならびに英国内務省のジョイント・ワークショップの中で、今後の鍵となるものとして認識されていた。ワークショップでは、政府の文献サーベイの中で、ソーシャル・キャピタルに関する質問項目が多数あがっていたが、それらの計測においては非常に様々なアプローチが用いられていた。しかも、いくつかのサーベ

イにおいては、ソーシャル・キャピタルの部分的な面のみ計測することを意図している質問項目もあった。異なる計測によるアプローチでは、まとまりを欠き、コンセプトや定義づけにおいて、不一致な結果になりかねない。

英国統計局は、計測可能なソーシャル・キャピタルの定義についての同意をはかり、次に計測のためのフレームワーク策定を行い、最後に質問項目の策定とテストを行っている。ソーシャル・キャピタル計測には次の5つの要因があるというのが結論である。

1. 社会参加 (Social participation)
2. 市民参加 (Civic participation)
3. ソーシャル・ネットワークと社会的支援 (Social network and social support)
4. 相互依存と信頼 (Reciprocity and trust)
5. 地域についての見方 (Views of the local area)

2.3 本稿におけるソーシャル・キャピタル計測のための質問票の作成

本稿では英国統計局の設問項目にできるだけ準拠した質問票を作成し、アンケート調査を行った。両者には以下のような対応関係がある。質問票は回答しやすさに配慮して次のような分類がなされている。具体的には、A. 地域についての一般論、B. 地域参加について、C. 信頼について、D. ソーシャル・ネットワークについてという分類である。

ソーシャル・キャピタル計測に関する先の5つの要因がそれぞれの分類に反映されている。

A. 地域についての一般論

英国統計局	日本地域 SNS アンケート
どのくらい長くその地域に住んでいるか	同左
住み心地はどうか	同左
隣人についての解釈	異なるバックグラウンドを持つ人が、同じ地域に隣人として生活することについてどう感じるか
異なるバックグラウンドを持つ人が隣人として生活することへの賛否	異なるバックグラウンドを持つ人が、同じ地域に隣人として生活することについてどう感じるか
隣人への信頼度	両隣3軒くらいの人たちに関する信頼度
無くし物をしたときの、紛失物の戻ってきやすさ	同左
公共の場での酔っ払いと暴力についての地域の問題度	同左
近隣における盗みや嘘についての問題度	同左
公共物（公共の乗り物を含む）破損、落書き等の問題度	同左

ドラッグの利用	該当なし
肌の色、宗教、民族等による差別	該当なし
若者のたむろ	同左
隣人についての問題の大きさ	該当なし

B. 地域参加について

英国統計局	日本地域 SNS アンケート
地域政策の意思決定についての関与度	これまでに地域政策の意思決定について関与したことはあるか
地域住民と一緒に活動することで、地域政策に影響を与えることが出来る	地域住民と一緒に、地域のための活動/地域に関する活動を行ったことがあるか
過去 12 ヶ月間、地域において人々のために問題を解決しようとしたことがあるか	同左
過去 12 ヶ月間、国の問題について、自分の関心を示して行動をとったことがあるか	同左
投票へ行くか	同左

C. 信頼について

英国統計局	日本地域 SNS アンケート
一般的に、ほとんどの人が信頼できるか	地域の人たち全般に関する信頼度はどの程度か
警察はどの程度信頼できるか	同左
裁判所はどの程度信頼できるか	同左
国会はどの程度信頼できるか	同左
(地方) 議会はどの程度信頼できるか	同左
代表者たちはどの程度信頼できるか	議会の代表者たちはどの程度信頼できるか
地方自治体はどの程度信頼できるか	同左

D. ソーシャル・ネットワークについて

英国統計局	日本地域 SNS アンケート
親戚に電話をかける頻度	家族・親戚に電話をかける頻度
親戚に手紙を書く頻度	家族・親戚に手紙を書く頻度
インターネット、チャット、メールなどを利用して親戚にメッセージを送る頻度	インターネット、チャット、メールなどを利用して家族・親戚にメッセージを送る頻度

友達と電話で話す頻度	同左
友達に手紙を書く頻度	同左
インターネット、チャット、メールなどを利用して友達にメッセージを送るヒント	同左
隣人に話しかける頻度	同左
非同居の親戚に会う頻度	同左
友人に会う頻度	同左

3. アンケート調査の概要

以上の質問項目と地域 SNS の利用に関して、インターネットリサーチによるアンケート調査を、2007 年 9 月に行った。対象者は地域 SNS 利用者で、サンプル数は 1648 人である。

図表 1-3 はサンプル対象 1648 人の属性を表している。男女は約 50%づつになっている。年齢別には、20 歳代後半から 40 歳代前半が 2 桁のシェアとなっている。所属地域としては、圧倒的に関東圏に集中している。

図表 4-19 はソーシャル・キャピタルに関する質問に関する結果である。図表 20-22 が地域 SNS 利用に関する結果、図表 23-24 が地域の変化となっている。

図表 1 サンプル対象の属性 1(性別)

	性別 単一回答		
		N	%
1	男性	804	48.8
2	女性	844	51.2
	全体	1648	100.0

図表 2 サンプル対象の属性 2(年齢)

	年齢 単一回答		
		N	%
1	20才～24才	113	6.9
2	25才～29才	249	15.1
3	30才～34才	373	22.6
4	35才～39才	310	18.8
5	40才～44才	236	14.3
6	45才～49才	152	9.2
7	50才～54才	90	5.5
8	55才～59才	52	3.2
9	60才以上	73	4.4
	全体	1648	100.0

図表 3 サンプル対象の属性 3(所属地域)

地域 単一回答		
	N	%
1 北海道	95	5.8
2 東北地方	93	5.6
3 関東地方	608	36.9
4 中部地方	271	16.4
5 近畿地方	300	18.2
6 中国地方	88	5.3
7 四国地方	49	3.0
8 九州地方	144	8.7
全体	1648	100.0

図表 4 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

あなたが、現在お住まいの地域の、住み心地はいかがですか？ 単一回答		
	N	%
1 非常に不満である	52	3.2
2 やや不満である	292	17.7
3 どちらともいえない	283	17.2
4 まあまあ満足している	830	50.4
5 非常に満足している	191	11.6
全体	1648	100.0

図表 5 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

あなたが、現在お住まいの地域において、地域に住んでいる他の人々とは、どの程度が知り合いですか？ 単一回答		
	N	%
1 まったく知り合いはない(1%未満)	120	7.3
2 あまり知り合いがいない(だいたい1~25%程度)	508	30.8
3 どちらともいえない(だいたい26~50%程度)	479	29.1
4 まあまあ知り合いがいる(だいたい51~75%程度)	457	27.7
5 ほぼみんな知り合いである(だいたい76~100%程度)	84	5.1
全体	1648	100.0

図表 6 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

あなたは、異なるバックグラウンドを持つ人が、同じ地域に隣人として生活することについて、どのように感じますか？ 単一回答		
	N	%
1 全く歓迎しない	10	0.6
2 どちらかといえば歓迎しない	92	5.6
3 どちらともいえない	772	46.8
4 どちらかといえば歓迎する	624	37.9
5 非常に歓迎する	150	9.1
全体	1648	100.0

図表 7 アンケート結果(ソ・シャルキャピタル関連)

	もし、あなたが無くし物をしたとき、あなたが住んでいる地域で、その紛失物の戻ってきやすさは、どの程度だと思いますか？ 単一回答		
		N	%
1	絶対に戻ってこないと思う(1%未満)	121	7.3
2	ほとんど戻ってこないと思う(だいたい1~25%程度)	602	36.5
3	どちらともいえない(だいたい26~50%程度)	560	34.0
4	まあまあ戻ってくると思う(だいたい51~75%程度)	339	20.6
5	絶対に戻ってくると思う(だいたい76~100%程度)	26	1.6
	全体	1648	100.0

図表 8 アンケート結果(ソ・シャルキャピタル関連)

	あなたは、あなたの住んでいる地域で、公共の場での酔っ払いや、暴力について、どの程度問題だと思いますか？ 単一回答		
		N	%
1	非常に問題である	263	16.0
2	まあまあ問題である	457	27.7
3	どちらともいえない	351	21.3
4	あまり問題ではない	517	31.4
5	まったく問題ではない	60	3.6
	全体	1648	100.0

図表 9 アンケート結果(ソ・シャルキャピタル関連)

	あなたは、あなたが住んでいる地域において、近隣における盗みや嘘について、どの程度深刻な問題だと思いますか？ 単一回答	全体	1	2	3	4	5
			非常に深刻な問題である	まあまあ深刻な問題である	どちらともいえない	あまり深刻な問題ではない	まったく深刻な問題ではない
1	盗み	1648 100.0	347 21.1	490 29.7	346 21.0	402 24.4	63 3.8
2	嘘(事実と反すること)	1648 100.0	188 11.4	455 27.6	524 31.8	410 24.9	71 4.3

図表 10 アンケート結果(ソ・シャルキャピタル関連)

	あなたが住んでいる地域では、公共物(公共の乗り物を含む)の破損や、落書き等は、どの程度ありますか？ 単一回答		
		N	%
1	非常に多い	54	3.3
2	やや多い	303	18.4
3	どちらともいえない	401	24.3
4	まあまあ少ない	636	38.6
5	非常に少ない	254	15.4
	全体	1648	100.0

図表 11 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

あなたが住んでいる地域では、若者のたむろは、どの程度ありますか？ 単一回答			
		N	%
1	非常に多い	88	5.3
2	やや多い	372	22.6
3	どちらともいえない	475	28.8
4	まあまあ少ない	577	35.0
5	非常に少ない	136	8.3
全体		1648	100.0

図表 12 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

あなたは、地域住民と一緒に、地域のための活動/地域に関する活動を行ったことがありますか？ そのような活動にどのくらい積極的に関わっているか、以下の地域それぞれについてお答えください。 単一回答		全体	1	2	3	4	5
			まったく積極的ではない/関わっていない	あまり積極的ではない	どちらともいえない	まあまあ積極的である	非常に積極的である
1	現在お住まいの地域	1648 100.0	270 16.4	522 31.7	431 26.2	381 23.1	44 2.7
2	もっとも頻繁に利用している/もっとも好きな「地域SNS」がある地域	1648 100.0	277 16.8	455 27.6	587 35.6	298 18.1	31 1.9

図表 13 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

あなたは、これまでに、地域政策の意思決定について関与したことはありますか？ そのような意思決定にどのくらい積極的に関わっているか、「地域SNS」 単一回答		全体	1	2	3	4	5
			まったく積極的ではない/関わっていない	あまり積極的ではない	どちらともいえない	まあまあ積極的である	非常に積極的である
1	「地域SNS」を利用しない場合の関与	1648 100.0	372 22.6	481 29.2	592 35.9	184 11.2	19 1.2
2	「地域SNS」を利用した場合の関与	1648 100.0	343 20.8	436 26.5	615 37.3	231 14.0	23 1.4

図表 14 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

あなたは、選挙の際、投票へ行きますか？ 単一回答			
		N	%
1	まったく行かない	99	6.0
2	あまり行かない(だいたい1~25%程度)	144	8.7
3	どちらともいえない(だいたい26~50%程度)	111	6.7
4	まあまあ行く(だいたい51~75%程度)	312	18.9
5	ほぼ毎回行く(だいたい76~100%程度)	982	59.6
全体		1648	100.0

図表 15 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

	あなたは、一般的に次の人たちに 関する信頼度はどの程度ですか？ ※「地域・地方」とは、あなたがお住 単一回答	全体	1	2	3	4	5
			全く信頼 できない	あまり信 頼できな い	どちらとも いえない	まあまあ 信頼でき る	非常に信 頼できる
1	地域の人たち全般	1648 100.0	44 2.7	159 9.6	664 40.3	733 44.5	48 2.9
2	両隣3軒くらいの人たち	1648 100.0	63 3.8	162 9.8	480 29.1	750 45.5	193 11.7
3	警察	1648 100.0	88 5.3	272 16.5	503 30.5	714 43.3	71 4.3
4	裁判所	1648 100.0	65 3.9	204 12.4	741 45.0	564 34.2	74 4.5
5	国会	1648 100.0	290 17.6	495 30.0	643 39.0	202 12.3	18 1.1
6	地方議会	1648 100.0	240 14.6	530 32.2	636 38.6	221 13.4	21 1.3
7	議会の代表者たち(議員)	1648 100.0	276 16.7	542 32.9	606 36.8	207 12.6	17 1.0
8	地方自治体	1648 100.0	156 9.5	450 27.3	680 41.3	336 20.4	26 1.6

図表 16 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

	あなたは、次の人たちと接触を持つ 頻度はどの程度ですか？ 単一回答	全体	1	2	3	4	5
			1週間に 1回以下 ／接触は ない	1週間に 2～3回	1週間に 4～5回	1週間に 6～7回	1週間に 8回以上
1	家族・親戚に電話をかける頻度	1648 100.0	677 41.1	538 32.6	175 10.6	122 7.4	136 8.3
2	家族・親戚に手紙を書く頻度	1648 100.0	1521 92.3	84 5.1	26 1.6	7 0.4	10 0.6
3	インターネット、チャット、メールなど を利用して、家族・親戚にメッセージ	1648 100.0	772 46.8	441 26.8	154 9.3	97 5.9	184 11.2
4	友達と電話で話す頻度	1648 100.0	798 48.4	537 32.6	147 8.9	69 4.2	97 5.9
5	友達に手紙を書く頻度	1648 100.0	1498 90.9	97 5.9	25 1.5	16 1.0	12 0.7
6	インターネット、チャット、メールなど を利用して友達にメッセージを送る	1648 100.0	421 25.5	520 31.6	236 14.3	143 8.7	328 19.9
7	隣人に話しかける頻度	1648 100.0	729 44.2	549 33.3	192 11.7	88 5.3	90 5.5
8	非同居の親戚に会う頻度	1648 100.0	1395 84.6	168 10.2	48 2.9	23 1.4	14 0.8
9	友人に会う頻度	1648 100.0	832 50.5	517 31.4	146 8.9	69 4.2	84 5.1
10	「地域SNS」にログインする頻度	1648 100.0	673 40.8	536 32.5	204 12.4	126 7.6	109 6.6

図表 17 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

	もし、あなたが病気で寝たきりとなり、家に手伝いが欲しいとき、誰か手助けをお願いできる人はいますか？ 単一回答		
		N	%
1	まったくいない	138	8.4
2	あまりいない	300	18.2
3	どちらともいえない	298	18.1
4	まあまあいる	625	37.9
5	確実にお願いできる人がいる	287	17.4
全体		1648	100.0

図表 18 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

	あなたは、過去12ヶ月間、地域のことについて、誰かと一緒にグループ活動をしたり、グループ活動について話し合ったことはありますか？「地域SNS」を利用しない場合と、単一回答	全体	1	2	3	4	5
			1週間に1回以下 ない	1週間に2~3回	1週間に4~5回	1週間に6~7回	1週間に8回以上
1	「地域SNS」を利用しない場合	1648 100.0	1367 82.9	214 13.0	45 2.7	13 0.8	9 0.5
2	「地域SNS」を利用した場合	1648 100.0	1299 78.8	259 15.7	63 3.8	20 1.2	7 0.4

図表 19 アンケート結果(ソ-シャルキャピタル関連)

	あなた自身は、誰かから無報酬の手助けを頼まれたとき、どのように思いますか？ 単一回答		
		N	%
1	頼まれて非常に迷惑である	50	3.0
2	頼まれてやや迷惑である	177	10.7
3	どちらともいえない、	832	50.5
4	頼まれてまあまあうれしい	526	31.9
5	頼まれて非常にうれしい	63	3.8
全体		1648	100.0

図表 20 アンケート結果(地域 SNS について)

	あなたにとって、「地域SNS」は、どの程度重要だと思う情報源ですか？ 単一回答		
		N	%
1	全く重要ではない	36	2.2
2	あまり重要ではない	181	11.0
3	どちらともいえない	673	40.8
4	少し重要	641	38.9
5	非常に重要	117	7.1
全体		1648	100.0

図表 21 アンケート結果(地域 SNS について)

	あなたは、「地域SNS」を利用した結果、以下のことはどのように変わったと感じますか？ 単一回答	全体	1	2	3	4	5
			全くそう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	まあまあそう思う	非常にそう思う
1	情報収集にかかる時間が早くなった	1648 100.0	88 5.3	164 10.0	514 31.2	754 45.8	128 7.8
2	情報収集にかかるお金が減った	1648 100.0	129 7.8	216 13.1	774 47.0	455 27.6	74 4.5
3	意思決定の早さが早くなった	1648 100.0	119 7.2	210 12.7	893 54.2	379 23.0	47 2.9
4	視野が広がった	1648 100.0	85 5.2	125 7.6	538 32.6	761 46.2	139 8.4
5	知識の持ち主(キーパーソン)にたどり着く時間が短くなった	1648 100.0	107 6.5	164 10.0	742 45.0	542 32.9	93 5.6
6	知識の持ち主(キーパーソン)から知識を受け継ぐのにかかる時間が短くなった	1648 100.0	109 6.6	162 9.8	819 49.7	481 29.2	77 4.7
7	知りえた情報を解釈し、自分で考えたり、行動したりするまでに要する時間が短くなった	1648 100.0	102 6.2	149 9.0	755 45.8	558 33.9	84 5.1
8	他の地域住民に対する理解度が深まった	1648 100.0	105 6.4	169 10.3	797 48.4	503 30.5	74 4.5
9	地域に対する愛着が深まった	1648 100.0	86 5.2	170 10.3	797 48.4	510 30.9	85 5.2
10	異なる地域の知り合いの数が増えた	1648 100.0	120 7.3	222 13.5	774 47.0	451 27.4	81 4.9
11	同じ地域の知り合いの数が増えた	1648 100.0	131 7.9	211 12.8	709 43.0	516 31.3	81 4.9
12	異なるバックグラウンドを持つ知り合いの数が増えた	1648 100.0	132 8.0	219 13.3	729 44.2	502 30.5	66 4.0
13	同じバックグラウンドを持つ知り合いの数が増えた	1648 100.0	134 8.1	233 14.1	779 47.3	444 26.9	58 3.5
14	異なる年代の知り合いの数が増えた	1648 100.0	124 7.5	206 12.5	690 41.9	543 32.9	85 5.2
15	同じ年代の知り合いの数が増えた	1648 100.0	126 7.6	233 14.1	752 45.6	469 28.5	68 4.1
16	夢を追求することへの熱心さが増した	1648 100.0	166 10.1	286 17.4	887 53.8	263 16.0	46 2.8

図表 22 アンケート結果(地域 SNS について)

あなたが、現在あなたの住んでいる地域に対して、地域政策に関する新しい考え方や画期的なアイデアを思いついたとき、「地域SNS」で発言しようと思いませんか？ 単一回答			
		N	%
1	全く思わない	166	10.1
2	少し思う	400	24.3
3	どちらともいえない	754	45.8
4	思う	301	18.3
5	強く思う	27	1.6
全体		1648	100.0

図表 23 アンケート結果(地域の変化)

	現在あなたの住んでいる地域では、過去3年程度の間、効果的な新政策、新サービス、新企画などを生み出すことに成功していると思いませんか？ 単一回答	全体	1	2	3	4	5
			失敗している	どちらかといえば失敗している	どちらともいえない	どちらかといえば成功している	成功している
1	行政のサービスや企画	1648 100.0	177 10.7	355 21.5	936 56.8	169 10.3	11 0.7
2	民間のサービスや企画	1648 100.0	127 7.7	260 15.8	1064 64.6	190 11.5	7 0.4

図表 24 アンケート結果(地域の変化)

あなたは、あなたの地域が、過去3年程度の間、活性化してきていると感じますか？ 単一回答			
		N	%
1	まったく活性化してきていない	175	10.6
2	あまり活性化してきていない	438	26.6
3	どちらともいえない	597	36.2
4	まあまあ活性化してきている	409	24.8
5	非常に活性化してきている	29	1.8
全体		1648	100.0

4. 定量分析の結果

4-1 ソーシャルキャピタルに関する因子分析

地域 SNS 利用したことによる変化に対する、ソーシャル・キャピタルの関係を定量的に分析することが本稿の目的である。

まず、ソーシャル・キャピタルに関する各質問項目を因子分析を用いて数個の因子を求めた。軸の回転にはバリマックス法を用いている。図表 25 がソーシャル・キャピタルに関する因子分析の結果である。

国会、地方議会、議員に対する信頼度と相関の高い因子をナショナルトラスト因子と名づけた。

図表 25 ソーシャルキャピタルに関する因子分析の結果

変数	ナショナルトラスト 因子	治安 因子	ボランティア 因子	接触 因子	人々への信頼 因子	地域参加 因子
住んでる期間	-0.031	-0.001	0.002	-0.021	0.178	0.222
地域の住み心地	0.201	0.115	0.001	-0.028	0.285	0.029
地域住人の知り合い関係	0.074	-0.005	0.137	0.119	0.328	0.344
異なるバックグラウンドの隣人の感想	0.093	0.076	0.166	0.032	0.289	0.085
紛失品のもどってきやすさ	0.135	0.267	0.056	0.085	0.368	0.260
公共の場での酔っ払いや暴力	0.062	0.718	-0.017	-0.003	0.094	0.012
近隣の盗難	0.041	0.891	-0.014	0.010	0.027	0.040
近隣の嘘	0.076	0.845	-0.007	-0.043	0.091	-0.004
公共物の破損、落書き	0.086	0.448	-0.036	-0.084	0.302	0.052
地域での若者のたむろ	0.125	0.411	-0.072	-0.076	0.263	0.025
地域活動	0.115	0.053	0.207	0.074	0.204	0.761
地域政策の意思決定への関与	0.117	0.025	0.166	0.103	0.052	0.724
選挙の際の投票	0.101	0.001	0.107	-0.060	0.256	0.172
信頼度(地域の人たち全般)	0.262	0.173	0.059	0.008	0.700	0.159
信頼度(両隣3軒くらいの人たち)	0.219	0.142	0.089	-0.002	0.698	0.165
信頼度(警察)	0.479	0.114	0.036	-0.053	0.443	0.011
信頼度(裁判所)	0.530	0.071	0.070	-0.023	0.389	0.013
信頼度(国会)	0.827	0.029	-0.009	0.078	0.039	0.018
信頼度(地方議会)	0.942	0.041	0.020	0.051	0.052	0.048
信頼度(議員)	0.905	0.037	0.008	0.035	0.050	0.075
信頼度(自治体)	0.769	0.070	0.036	0.027	0.195	0.053
接触を持つ頻度(家族・親戚に電話)	0.006	-0.040	0.214	0.351	0.170	0.122
接触を持つ頻度(家族・親戚に手紙)	0.093	-0.043	0.051	0.685	-0.078	0.043
接触を持つ頻度(家族・親戚に電子媒体でメッセージ)	0.004	-0.018	0.264	0.328	0.135	0.083
接触を持つ頻度(友達と電話で話す頻度)	-0.001	-0.005	0.339	0.454	0.086	0.162
接触を持つ頻度(友達に手紙を書く頻度)	0.111	-0.017	0.038	0.743	-0.040	0.059
接触を持つ頻度(友達に電子媒体でメッセージ)	-0.040	0.011	0.342	0.261	0.093	0.001
接触を持つ頻度(隣人への話しかけ)	0.036	0.024	0.260	0.339	0.305	0.252
接触を持つ頻度(非同居の親戚に会う頻度)	0.105	-0.032	0.126	0.610	0.051	0.093
接触を持つ頻度(友達に会う頻度)	0.021	0.003	0.359	0.415	0.124	0.147
接触を持つ頻度(地域SNSにログインする頻度)	-0.003	-0.018	0.288	0.256	0.059	0.097
グループ活動への参加	0.080	-0.024	0.559	0.159	0.079	0.328
グループに対する無報酬の手助け	0.030	-0.009	0.597	0.084	0.043	0.284
非同居の人々から頼みごとをされる(個人)	-0.028	-0.021	0.629	0.008	0.095	0.071
非同居の人々から頼みごとをされる(グループ)	0.073	-0.039	0.658	0.102	0.019	0.230
非同居の人々に頼みごとをする	0.022	-0.037	0.519	0.147	0.048	0.002

公共の場での酔っ払いと暴力の程度、近隣の盗難や嘘と相関の高い因子を治安因子と名づけた。

グループ活動への参加、グループに対する無報酬の手助け、非同居の人との間の頼みごとと相関の高い因子をボランティア因子と名づけた。

家族・親戚に手紙を書く頻度、友達に手紙を書く頻度、非同居の親戚に会う頻度と相関の高い因子を接触因子と名づけた。

地域の人達全般への信頼度と隣 3 軒くらいの人達に対する信頼度と相関が高い因子を人々への信頼因子と名づけた。

地域活動への参加や地域政策への意思決定への参加に対して相関が高い因子を人々への地域参加因子と名づけた。

4-2 順序プロビット・モデルを用いた実証分析

本稿では質的データの定量分析の方法として、順序プロビット・モデルを用いた。

地域 SNS 利用したことによる各種の変化を被説明変数、ソーシャル・キャピタルを説明変数とする式を、順序プロビット・モデルを用いて推計する。

これらのソーシャル・キャピタルに関する各因子を説明変数として、被説明変数に地域 SNS の利用による変化とした順序プロビット・モデルをまず推計した。回等者の属性を表す、性別、年齢、住んでいる地域、職業をコントロールした上で推計した。次に他に地域 SNS の利用による変化に影響があると思われる要因も説明変数に加えた。「SNS での地域政策の発言の度合い」は回答者の地域 SNS に対する積極性を表す変数である。「過去 3 年間の地域における民間のサービス・企画の創出」と「地域が過去 3 年間活発になったかどうか」という質問は、回答者の地域の状態変化に関する変数である。

図表 26 は説明変数の基本統計量で、図表 27 は説明変数の相関行列である。

図表 26 基本統計量

変数	サンプル数	平均	標準偏差	最小値	最大値
ナショナルトラスト因子	1648	0.0000	0.9709	-2.0418	2.8805
治安因子	1648	0.0000	0.9413	-1.9241	2.3734
ボランティア因子	1648	0.0000	0.8622	-1.5243	4.6946
接触因子	1648	0.0000	0.8822	-1.2238	7.5358
人々への信頼因子	1648	0.0000	0.8732	-3.0111	2.5622
地域参加因子	1648	0.0000	0.8589	-1.9590	2.5259
SNSでの地域政策の発言	1648	2.7712	0.9176	1	5
地域における民間のサービス・企画の創出	1648	2.8119	0.7505	1	5
地域の活発化	1648	2.8052	0.9858	1	5

図表 27 スピアマン相関行列

	ナショナルトラスト 因子	治安 因子	ボランティア 因子	接触 因子	人々への信頼 因子
ナショナルトラスト因子	1				
治安因子	-0.0177	1			
ボランティア因子	-0.0422	0.0041	1		
接触因子	-0.2314	0.0151	0.0975	1	
人々への信頼因子	-0.0239	0.031	0.0838	0.029	1
地域参加因子	-0.0054	0.017	0.0582	-0.0262	0.0801
SNSでの地域政策の発言	0.1309	-0.0144	0.1848	0.0185	0.0994
地域における民間のサービス・企画の創出	0.3029	0.1007	0.0869	-0.0476	0.1398
地域の活発化	0.2925	0.0721	0.0912	-0.0201	0.1341

	地域参加 因子	SNSでの発言 因子	サービス・企画 の創出	地域 活性化
ナショナルトラスト因子				
治安因子				
ボランティア因子				
接触因子				
人々への信頼因子				
地域参加因子	1			
SNSでの地域政策の発言	0.2679	1		
地域における民間のサービス・企画の創出	0.1155	0.2214	1	
地域の活発化	0.1114	0.1798	0.5346	1

被説明変数に地域 SNS の利用による変化は、「情報収集にかかる時間」と「知識の持ち主にたどりつく時間」、「異なるバックグラウンドを持つ知り合いの増加」、「同じバックグラウンドを持つ知り合いの増加」の 4 つを取り上げた。前者 2 つは、情報収集面に関する地域 SNS による効果を表し、後者 2 つは人間関係に関する地域 SNS による効果を表す。

図表 28 推計結果

被説明変数 情報収集にかかる時間

	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差
ナショナルトラスト因子	0.01785	0.00346 ***	0.0068	0.0036 *
治安因子	-0.00013	0.00336	-0.0012	0.0032
ボランティア因子	0.02935	0.00429 ***	0.0215	0.0081 ***
接触因子	-0.00362	0.00367	-0.0052	0.0039
人々への信頼因子	0.02989	0.00415 ***	0.0230	0.0083 ***
地域参加因子	0.01587	0.00396 ***	0.0077	0.0042 *
SNSでの地域政策の発言			0.0252	0.0107 **
地域における民間のサービス・企画の創出			0.0152	0.0083 *
地域の活発化			0.0097	0.0056 *
性別	0.03219	0.00877 ***	0.0337	0.0176 *
年齢	-0.00377	0.00170 **	-0.0040	0.0016
地域ダミー		使用		使用
職業ダミー		使用		使用
サンプル数		1648		1648
擬似決定係数		0.0719		0.0934

(注)***:1%有意水準,**:5%有意水準,*:10%有意水準を表す。以下同様である。

被説明変数 知識の持ち主にたどりつく時間

	限界効果	標準誤差		限界効果	標準誤差	
ナショナルトラスト因子	0.0144	0.0026	***	0.0071	0.0023	***
治安因子	-0.0032	0.0023		-0.0033	0.0021	
ボランティア因子	0.0209	0.0032	***	0.0144	0.0028	***
接触因子	0.0030	0.0026		0.0016	0.0023	
人々への信頼因子	0.0205	0.0031	***	0.0157	0.0028	***
地域参加因子	0.0170	0.0030	***	0.0104	0.0026	***
SNSでの地域政策の発言				0.0201	0.0031	***
地域における民間のサービス・企画の創出				0.0073	0.0033	**
地域の活発化				0.0056	0.0025	**
性別	0.0068	0.0059		0.0086	0.0054	
年齢	0.0004	0.0012		0.0000	0.0011	
地域ダミー		使用			使用	
職業ダミー		使用			使用	
サンプル数		1648			1648	
擬似決定係数		0.0866			0.1107	

被説明変数 異なるバックグラウンドを持つ知り合いの増加

	限界効果	標準誤差		限界効果	標準誤差	
ナショナルトラスト因子	0.0090	0.0017	***	0.0055	0.0014	***
治安因子	-0.0014	0.0013		-0.0013	0.0012	
ボランティア因子	0.0158	0.0025	***	0.0119	0.0021	***
接触因子	0.0023	0.0014		0.0016	0.0013	
人々への信頼因子	0.0127	0.0022	***	0.0100	0.0019	***
地域参加因子	0.0129	0.0022	***	0.0091	0.0018	***
SNSでの地域政策の発言				0.0106	0.0019	***
地域における民間のサービス・企画の創出				0.0039	0.0018	**
地域の活発化				0.0010	0.0013	
性別	0.0005	0.0032		0.0017	0.0029	
年齢	0.0000	0.0006		-0.0003	0.0006	
地域ダミー		使用			使用	
職業ダミー		使用			使用	
サンプル数		1648			1648	
擬似決定係数		0.1118			0.1315	

被説明変数 同じバックグラウンドを持つ知り合いの増加

	限界効果	標準誤差		限界効果	標準誤差	
ナショナルトラスト因子	0.0094	0.0018	***	0.0062	0.0015	***
治安因子	-0.0003	0.0012		-0.0003	0.0011	
ボランティア因子	0.0129	0.0022	***	0.0093	0.0018	***
接触因子	0.0039	0.0015	***	0.0030	0.0013	**
人々への信頼因子	0.0105	0.0019	***	0.0083	0.0017	***
地域参加因子	0.0130	0.0022	***	0.0093	0.0018	***
SNSでの地域政策の発言				0.0102	0.0019	***
地域における民間のサービス・企画の創出				0.0024	0.0018	
地域の活発化				0.0011	0.0013	
性別	0.0026	0.0032		0.0036	0.0029	
年齢	-0.0006	0.0006		-0.0008	0.0006	
地域ダミー		使用			使用	
職業ダミー		使用			使用	
サンプル数		1648			1648	
擬似決定係数		0.0973			0.1154	

図表 28 が推計結果である。推計結果を見る限り、説明変数におけるソーシャル・キャピタルに関する各因子のうち、ナショナルトラスト因子、ボランティア因子、人々への信頼因子、地域参加因子はいずれの場合も統計的に有意な結果となっていることがわかる。他の変数では、地域 SNS で地域政策に関して発言する人の方が、地域 SNS 利用を利用して情報収集面の効果・知り合いの増加といった効果が表れていることがわかる。

異なるバックグラウンドを持つ知り合いの増加の場合と同じバックグラウンドを持つ知り合いの増加の場合とを比較すると、ソーシャル・キャピタルに関する各因子のうち接触因子は、同じバックグラウンドを持つ知り合いの増加の場合にのみ有意な結果となった。

5. まとめと今後の課題

地域 SNS 利用によって何らかの効果をあげるのに、ソーシャル・キャピタルのいくつかの属性が有効であることがわかった。地域情報化において従来定性的に述べられてきたことが定量的により具体的に把握できた。

また、地域 SNS 利用の効果のなかで、異なるバックグラウンドを持つ知り合いの増加のケースと、同じバックグラウンドを持つ知り合いの増加のケースでは、ソーシャル・キャピタルの属性の接触因子だけが違う影響となっていることがわかった。この接触因子とは、非同居の家族・親戚、友人に手紙を書く頻度や非同居の家族・親戚に会う頻度といった、「ネット空間」ではない接触の仕方に関係したものである。従来型のコミュニケーションも重視する参加者の場合には、地域 SNS を利用した効果として同じバックグラウンドを持つ知り合いが増加したという結果である。これが意味することの理解については、今後さらに分析を深めたいと考える。

【参考文献】

- 丸田・国領・公文(2006),『地域情報化認識と設計』NTT 出版,2006 年
- 峰滝・吉田(2006),「情報技術革新の進展が生み出すサービス・イノベーション」
ブログ・SNS とイノベーション～従業員アンケートからみる、ブログ・SNS の効果
について～ Discussion Paper No.06-11 富士通総研,2006 年
- Norris, Pippa (2003), “Social Capital and ICTs: Widening or Reinforcing Social Networks”, presented at the “International Forum on Social Capital for Economic Revival” held by the Economic and Social Research Institute, Cabinet Office, Japan in Tokyo,24-25th March 2003
- Putnam, Robert D. (1996), “The strange Disappearance of Civic America”, The American Prospect,24
- Putnam , Robert D. (2000), Bowling Alone, New York: Free Press.